令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 土合小学校 ）　　学校番号　０１６

【様式】

目指す学校像	あいさつと笑顔があふれる、信頼と潤いのある学校

重点目標	１　学ぶ喜びのある生き生きとした学校（「確かな学力」の育成、ＩＣＴ教育の充実） ２　安全で落ち着きのある美しい学校（心のサポート体制整備・安全教育の充実、安全管理の徹底） ３　家庭や地域とこころが通い合う学校（コミュニティースクールの推進） ４　学校教育目標の実現に向け、総力を結集する教職員（わかる授業、学び続ける教師、研修の充実）

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
達成度	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日　令和６年２月１４日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	（現状） ○全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果をみると、どの教科も全国・市の平均点くらいの得点であり、概ね良好である。 ○落ち着いて学習に取り組み、しっかりと話を聴いて授業に取り組むことができる。 ○各教科が好きか？の肯定的回答は全国・市よりも高い傾向がある。 （課題） ○基礎学力の向上を図る必要がある。特に、「思考・判断・表現」の領域の育成が課題である。 ○国語の読解力（読むこと）、算数の図形分野に課題がある。	・「確かな学力」を育成するための授業改善（ICT の効果的な活用）	①各教科等のねらいの達成にどのようにタブレットの機能が活用できるか吟味し、オクリンクやムーブノートを積極的に活用する。	①市学習状況調査（生活習慣）で、「コンピュータを活用して情報を集めて整理したり、分析したり、まとめたりすることができた」が市の平均以上となったか。	①市学習状況調査（生活習慣）の結果が未着なため、R5 年 9 月実施児童生徒端末活用状況調査のデータを分析すると、「ほぼ毎日」「週 3 日以上」の活用状況が市の平均を超えて活用している。本校は、大変よく使用していて、効果的な活用ができている。	A	教科等のねらいの達成にどのようにＩＣＴを活用できるか吟味し、積極的に活用することができていた。今後は、ICT を効果的にどう活用していくか研修をすすめていく。	・確かな学力を育成継続のため児童に向き合い、教員の力を発揮している。自分の考えをまとめて発表する力は、コミュニケーションの基本であり、大切な力であるので、育成してほしい。 ・学校全体で、ICT 活用を進めており、情報リテラシーが進んでいる。 ・読書教育の更なる充実を図り、読解力の向上のため、読書の機会確保、話す書く活動を充実させる必要がる。
		・「思考・判断・表現」の領域の育成	①理由を明確にしながら自分の考えを書いたり、伝えたりする活動の充実を図る。授業の最後に自己評価（振り返り）を行う。 ②読書活動の推進、学校図書館司書の活用	①市学習状況調査（生活習慣）で、「目的に応じて自分の考えと理由を工夫して書く」が市の平均以上となったか。 ②昨年度より、図書貸出数が増加したか。	①R5 全国学力状況調査（国語）「書くこと」の分析をすると、全国平均及び県平均より９ポイント上回っている。授業の最後に自己評価（振り返り）を行っていることが成果となっていると考える。 ②昨年度と同様の貸し出し数であった。図書部や図書委員会の活動、読み聞かせボランティアの活動など積極的推進を行った。	A	学校教育目標の具現化に向けて、子どもたちの実態を把握して、次年度の学校課題研修について、今後検討をしてテーマをしぼっていく。	
2	（現状） ○市学習状況調査「学校に行くのは楽しいですか」に、肯定的意見 96%で市平均より高い。 ○学校評価「学校は保護者からの相談に対し、適切に対応している」の肯定的回答は、95%である。児童の学校評価項目「困ったときは先生や友達に相談をしている」の肯定的回答は、85%である。 ○学校評価「学校は施設設備の安全に配慮している」の肯定的回答は、95%である。 （課題） ○長欠児童がおり、保護者との連絡がなかなかつながらない家庭がある。 ○配慮を要する児童への組織的な対応が必要である。 ○専門家スタッフ（SC、SSW など）の限られた勤務日の中で、連携強化を図るための日程調整が必要である。 ○施設設備や備品等の老朽化	・児童一人ひとりを大切にした心のサポート体制の構築	①年度当初に、全教職員で共通理解・共通行動をとれるようにするため、保健面と行動面について、児童理解研修を実施する。 ②対応の難しい児童については、積極的にケース会議を実施し、組織的な対応をする。 ③議題を明確にした生徒指導委員会や教育相談委員会を実施する。 ④連携強化するため、管理職と専門家スタッフ（SC、SSW など）との打ち合わせを行う。 ⑤迅速な対応を徹底するため、「心と生活のアンケート」を確実に実施する。	①児童理解研修（保健、児童理解行動面）を実施し、共通理解を図ることができたか。 ②対応の難しい児童に対して、ケース会議を開催できたか。 ③生徒指導委員会や教育相談委員会の議題を明確にして資料を作成していたか。 ④管理職と専門家スタッフ（SC、SSW など）との打ち合わせを毎回実施したか。 ⑤「心と生活のアンケート」後に実施された面談結果の迅速な管理職への報告が行われたか。	①児童理解研修は、4／11（保健）、6／9（教育相談）に行った。共通理解や共通行動がとれるように研修を実施した。 ②組織的な対応を行うために、必要に応じてケース会議を開催した。1 月末段階で 6 回実施した。話し合ったことは全体に共有した。 ③生徒指導委員会、教育相談委員会では、議題を明確にして事前に資料入力、事前資料を配付し、効率的に実施した ④管理職と SC や SSW との報告会を毎回実施して、情報共有を密に行った。 ⑤「心と生活のアンケート」後実施した面談結果の迅速な管理職への報告が実施できた。	A	早い段階での健康面での児童理解研修及び 6 月の児童理解研修を次年度も実施し、教職員の共通理解・共通行動をとれるようにする。児童との日々のかかわりや面談を通して、担任と児童との間には、本人の悩みや課題を確認・共有することができている。子どもたちの発達段階に応じて支援していく。生徒指導委員会、教育相談委員会、ケース会議を通して、担任のみが指導の中心となるのではなく組織力で対応していけるように報告・連絡・相談・見届けを確実に実施していく。	・いじめの早期発見に尽力は素晴らしい。心と生活のアンケート実施と分析をもとに未然防止に努めていく必要がある。 ・きめ細かく対応してもらっている。教員の業務負担によるメンタルを心配している。スクールカウンセラー等積極的に活用してほしい。組織的に対応することは重要である。 ・児童同士が教え合い、異学年との交流活動を積極的に今後も実施してほしい。 ・専門知識を持った講師による研修（弁護士・特別支援・教育相談）などで知識のアップデートをすることは良い取り組みである。 ・児童見守りボランティアは、守秘義務を徹底し、積極的に取り組んでほしい。
		・安心、安全な学校環境の構築	①毎月の安全点検を「担当、管理職、事務、用務員の複数の目」で実施する。修繕や改善が必要な場合の迅速対応を行う。 ②教育環境の整備を計画的に実施する。	①学校評価「施設設備の安全」について肯定的回答が 90%以上となったか。 ②予算会議を定期的に行い、計画的整備を実施したか。	①学校評価「施設設備の安全」について肯定的回答が 97%で達成できた。複数の目で引き続き安心安全な環境づくりを推進する。 ②予算会議を学期に 1 回実施し、計画的な予算執行をすすめた。	A	安心・安全な学校であることは最優先であるため、「担当、管理職、事務、用務員の複数の目」で実施する。修繕や改善が必要な場合の迅速対応を今後も実施していく。	
3	（現状） ○地域全体で児童を育成するために学校・地域・保護者がそれぞれの立場で何ができるのか、学校運営協議会の会議や熟議を通して、「地域と共に歩む」土合小学校を推進している。 （課題） ○ポストコロナにおいて、学校行事をどのように再開するか、また、どう改善をしていくかが課題である。	・学校運営協議会を基盤として家庭や地域との連携強化	①学校運営協議会の３回開催する。 ②学校・地域・保護者がそれぞれの立場で何ができるのか実効性のある熟議を実施する。 ③ＳＳＮでは、保護者、地域との連携を強化して、児童の活動充実や安全のために、必要なボランティアの募集を行う。	①学校運営協議会を３回開催したか ②学校評価「学校は、保護者や地域の願いに応えようとしている」について肯定的回答が 90%以上となったか。 ③学校評価「経営方針・重点目標」について肯定的回答が 90%以上となったか。	①学校運営協議会を３回開催した。 ②学校評価「学校は、保護者や地域の願いに応えようとしている」について肯定的回答が 95%で達成できた。 ③学校評価「経営方針・重点目標」について肯定的回答が 95%以上で達成できた。 ・SSN では、新しく学校見守りボランティアを創設し、年度途中から稼働を開始した。	A	学校運営協議会を通して、学校と地域や保護者と課題を共有し、共に一緒に考え、情報を共有することができた。課題に対して、協力体制が強固で、心強く感じている。具体的な取り組みが進められるよう、連携をして協力し合いながら今後も進めていく。	・児童のあいさつは教職員、保護者、地域の大人がまず進んで挨拶することが必要。このことが、防犯意識を高め、連携の強化につながる。 ・学校として地域に何をしてほしいか、さらに具体的に示してほしい。 ・地域人材を積極的に活用して欲しい。様々な専門家がいるので相談して欲しい。 ・民生委員との連携を強化していくことが重要である。
		・開かれた学校に向け、積極的な情報発信	①毎月、学校だより、PTA だよりを HP へ掲載する。 ②HP の土合っ子トピックスを月 2 回以上更新し、子どもの活動や教職員の活動を紹介する。	①毎月、確実に学校だより、PTA だよりをアップできたか。 ②HP の土合っ子トピックスを月 2 回以上更新することができたか。	①ペーパーレス化を実施し、学校だよりをはじめ、学年だより、給食だより、保健だより、献立表、会計報告等 Web 化を行った。 ②HP の土合っ子トピックスを平均月 2 回更新することができた。	A	運動会、音楽会をはじめとした学校行事の公開については、昨年よりも対象人数等広げることができた。開かれた学校となるように、情報発信と公開を積極的に行っていく。	
4	（現状） ○高学年の「教科担任制」実施が今年度１年目 ○タブレットを授業の中で、効果的に活用するためエバンジェリストを中心にミニ研修の実施 ○校内研修で教師自ら主体的に課題を見つけ協働的な学びの取り組みを実施（2 年目） （課題） ○業務を精選し、教材研究や主体的に課題を見つけ研修する時間の確保が必要である。	・教師自ら主体的に課題を見つけ研修を進めることができる教職員の育成	①今年度実施した教科担任制について検証し、工夫・改善点を話し合い、次年度の案を決定する。 ②テーマを絞り、短時間で実施するエバンジェリストを中心に ICT ミニ研修を２０回以上実施する。 ③自ら主体的に課題を見つけ実施する研修を６本以上実施する。	①教科担任制について、今年度の検証を行い、工夫改善点を話し合い、次年度の計画案を作成できたか。 ②ICT ミニ研修を年間２０回以上実施することができたか。 ③自ら主体的に課題を見つけ実施する研修を６本以上実施することができたか。	①教科担任制に関する校内研修を実施し、成果と課題について話し合った。次年度の計画案を立案した。 ②ICT ミニ研修を年間２０回以上実施することができた。 ③各学年等が担当となって、校内研修のなかで６本以上実施することができた。	A	今年度実施した方法について、本校に合ったものを再度全教職員で検討していく。今後も、実際に運営をしてみて、問題点や改善すべき点を明らかにして、随時修正をしていく。	・教科担任制は、児童一人ひとりの支援につながり、多くの目で児童を見ることができ、他のクラスも見ることができる。積極的に進めて欲しい。